

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー（海外）：ブータンの農村に学ぶ発展のあり方 ILAS Seminar (Overseas) :An Alternative Development by Learning from Rural Bhutan				担当者所属 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 安藤 和雄 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
群	少人数群	単位数	2単位		時間数	30時間		授業形態	ゼミナール（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・ 後期集中	受講定員 (1回生定員)	10 (6) 人		配当学年	主として1回生		対象学生	全学向		
曜時限	集中 2019年2月26日 ～3月13日	教室	国外で実施(ブータン)				使用言語	日本語			
キーワード	ブータン / フィールドワーク集中講義 / 国際交流参加型講義 / 農村開発 / 過疎・離農などの問題										
[授業の概要・目的]											
日本の過疎・離農の問題がブータンでも起きている。その実態を理解し、その問題をいかにして東ブータンの村人、大学の学生や教員、行政者などが捉え、克服していこうとしているのかを、東南アジア研究所と学術協定を結んでいる王立ブータン大学シェラブツェ校において、ワークショップ、東ブータンの村々で参加型迅速農村調査法（PRA）や参加型農村調査と実践（PLA）によるフィールドワークによって学ぶ。											
[到達目標]											
交流相手であるブータン王立大学シェラブツェ校の学生や、地元の村人、村の行政関係者、保健所のスタッフ、小中学校の教員や生徒などとの交流や、暮らしの現場に触れることで、ブータンと日本を比較考察することで国際的な視点とは具体的に何をしめすのかを理解する。また、ブータンの過疎、離農の現実に触れることで、これらの問題が日本独自のものではなく、ブータンをはじめアジアにも広がりつつある「グローバルな問題」であるという認識を得る。											
[授業計画と内容]											
王立ブータン大学シェラブツェ校において、同校を受け入れ先として、参加型フィールド講義を行う。形式は集中講義として、ブータンの歴史や農村、農村開発に関する座学1日、フィールドワーク実習を5日、帰国時に半日をかけ本講義で掴んだことを発表するワークショップを実施する。座学はシェラブツェ校で、フィールドワークは、同校が立地するブータン国タシガン県の農村部で実施する。ワークショップはパロもしくはティンブーのホテルにて実施する予定。宿泊地は同校ゲストハウスとゲオック（行政村）の役場、農家を予定している。また、ブータンのシェラブツェ大学の若手教員と学部生を京都府下の中山間山村である南丹市美山町知井振興会に招き、日本の過疎・離農の問題の現状とその問題への取り組みを同じく学んでもらう。また「一まち一キャンパス事業との関連するILASの学部1年生対象の実習講義を宮津市、南丹市美山町知井振興会においても座学1日、フィールドワーク2日、最終日の1日をかけてワークショップを実施する予定である。この宮津市、知井振興会との協働プログラムには、できる限り、本講義でブータンにでかける学生に声をかけて1日でもよいので参加してもらおう。京都大学の学生派遣については、東ブータンの天候のために、2月下旬から3月中旬の2週間で実施する予定（確定は来年度の予定が決定する2018年4月から5月に行う）。したがって2018年度に卒業見込みであり、本科目の単位を卒業必要単位数に含む場合は、単位認定の時期が来年度に持ち越される場合があるので、注意が必要。この点については担当事務に確認してほしい。ブータンのシェラブツェ校からの教員と学生の京都への招聘については、7月中旬から8月上旬の2～3週間と2019年1月中旬から2月上旬1～2週間で予定している。尚授業は京都府と宮津市、京都大学の協働事業である「一まち一キャンパス事業」との連携、招へい者と											
----- ILASセミナー（海外）：ブータンの農村に学ぶ発展のあり方(2)へ続く！ -----											

ILASセミナー（海外）：ブータンの農村に学ぶ発展のあり方(2)

の交流会を企画する。

【履修要件】

東ブータンのフィールドワークにおいては、村では雑魚寝のような宿泊となる場合もあり、かつ、現地の食事（トウガラシとバター、チーズ味が基本）を食べることになり、また、ゲストハウス等々も、十分な宿泊設備が整っているわけではない。こうした現地でのフィールドワークでの共同生活を問題なくこなしていけることが履修要件となる。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、ILASセミナー（海外）に参加することはできません。

【成績評価の方法・観点】

東ブータンでのフィールドワークでの参加姿勢やシェラブツェ校でのワークショップでの発表をもとに、最終的には、成績評価を東ブータンの地で参加者全員でオープンに議論して学生参加型で成績評価を行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

新聞、インターネットでブータン関連の記事にできるかぎり目を通しておき、できることならスクラップする。また、本授業は、過疎、離農の問題に関係することでもあるので、この問題について、新聞、インターネットなどで取り上げられていたら、できるかぎり目をとおり、スクラップなどをしておく。

【その他（オフィスアワー等）】

本講義に参加する学生が決定した後は、事前の準備のための説明会と打ち合わせ会を参加者の予定をメール等で確認して1回（4月下旬～5月中旬を予定）行う。場所は東南アジア研究所で、詳しくはメール等で知らせる。

実習期間が2018年2月下旬から3月中旬となるため、成績報告が遅れる（場合によっては次年度に認定）。

費用は全て学生負担となる。

旅行保険と渡航費（航空運賃と滞在費）で25～30万円は最低でもかかる。

受入人数は10名前後を予定。これは、実施地での受け入れの都合による。選抜方法は、無作為抽選による。